

# 奥秩父の花

(秋)  
8～10月



埼玉県のマスコット：「コバトン」



**ヤマジノホトトギス** 山路の杜鵑草 (ユリ科)  
*Tricyrtis affinis*  
名前の通り、山路(山道)でよくみかける。里山から山地にかけ広く分布。花は茎の先や葉の付け根につく。渓谷沿いでは、ホトトギス、タマガワホトトギスなども見かける。高さ 30～60cm。



**ヤマトリカブト** 山烏兜 (キンポウゲ科)  
*Aconitum japonicum* var. *montanum*  
山地から亜高山の林内や林のふちで見かける。茎は弓なりにまがる。本州の中部～東北地方のみの特産。世界最強といわれる有毒植物で、全てが有毒であり、花粉も毒をもつ。長さ 60cm～2m。



**シシウド** 猪独活 (セリ科)  
*Angelica pubescens*  
日当たりの良い山地の草原でひときわ目立つ。茎は太く直立し、たくましい姿をしている。日本特産種。強そうな形をしているので猪が食うウドということから名がある。高さ 1～2m。



**リンドウ** 竜胆 (リンドウ科)  
*Gentiana scabra* var. *buergeri*  
山野で普通に見られる。秋の野山を代表する花の一つ。根を乾燥した漢方薬竜胆(りゅうたん)を音読みが変化したものから名がある。仲間のホソバナツルリンドウも多々ある。高さ 20～80cm。



**サラシナショウマ** 晒菜升麻 (キンポウゲ科)  
*Cimicifuga simplex*  
里山から亜高山まで分布は広い。林内や草原でよく見られる。名は若葉をさらして食べたことによるというが、キンポウゲ科は有毒植物が多いので食べない方がよい。高さ 60cm～1.5m。



**シラヒゲソウ** 白髭草 (ユキノシタ科)  
*Parnassia foliosa* var. *nummularia*  
山地の沢沿いの湿地や流水わきに生える。花びらを白いひげに見立てて名がつく。一本の茎に直径 2～2.5cm の白い花を 1 個つける。高さ 10～30cm。



**ヤハズヒゴタイ** 矢筈平江帯 (キク科)  
*Saussurea triptera*  
亜高山の草地で見られる。茎にはつばさがあり、そのことからヤハズ(矢筈)の名がつく。仲間にセイタカトウヒレンがある。高さ 30cm～60cm。



**ハナイカリ** 花碇 (リンドウ科)  
*Halenia corniculata*  
山地から亜高山の日当たりの良い草原や林のふちで見られる。花の形が船の碇(いかり)に見えることから名がある。花はクモクリソウなどと共に変な形をしている。高さ 10～30cm。



**キツリフネ** 黄釣船 (ツリフネソウ科)  
*Impatiens noli-tangere*  
山野の沢すじ、川のほとりなどの湿地に群生しているのをよく見かける。名は花の色と形からきている。仲間のツリフネソウは里山に多いが、キツリフネは山地に多い。高さ 40cm～80cm。



**シロヨメナ** 白嫁菜 (キク科)  
*Aster ageratoides* ssp. *leiophyllus*  
山野の山林のふちなどでよく見かける。花の中心は黄色で、まわりに白色の花びらをつける。葉はふちに鋸歯があり先がとがる。名はヨメナ(西日本に分布する野菊)に似た白花という意。高さ 15～30cm。



**ノハラアザミ** 野原薊 (キク科)  
*Cirsium oligophyllum*  
山野の乾いた草原や林のふちなどで見られる。分布は中部地方以北。春のノアザミとそっくりだが、ノアザミの総苞が粘るのに対し、これは粘らない。根生葉は地べたに広がる。高さ 40cm～1m。



**ダイモンジソウ** 大文字草 (ユキノシタ科)  
*Saxifraga fortunei* var. *incislobata*  
山地のあまり日当たりの良くない湿った岩上で咲いているのを見かける。花の形が大の字に似ていることから名がある。似た花にジンジソウ(人字草)がある。高さ 10～30cm。

© 清水孝資

リンドウのコメントは、

山野で普通に見られる。秋の野山を代表する花の一つ。名は、根を乾燥した漢方薬竜胆(りゅうたん)の音読みが変化したもの。仲間のホソバナツルリンドウも多々ある。高さ 20～80cm。

の方がわかりやすいとおもいますか？